

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間文化学部 国際文化学科	岡本 弘道 高松 亮太 鄭 銀志	R1. 7. 24 (水) 14 : 40~16 : 10	1212 会議室	テーマ：ICTの有効活用に向けた検討Ⅰ
				実施目的：ICTを活用した効果的な教育の実現を目指し、学科として組織的な検討を試みる。
				キーワード：ICT・eラーニング・自修支援・ポータルサイト
				実施内容： ICT（情報通信技術）を効果的に用いた授業を展開している学科教員3名（栗原武士准教授、富田和広教授、向居暁教授）が実践報告を行うとともに、効果的な利用方法に関するレクチャーを行う。 その情報を教員全員で共有したうえで、質疑応答・意見交換を行い、ICTを活用した効果的な教育方法を模索した。
人間文化学部 国際文化学科	岡本 弘道 高松 亮太 鄭 銀志	R1. 11. 13 (水) 14 : 40~16 : 10	1212 会議室	テーマ：ICTの有効活用に向けた検討Ⅱ
				実施目的：ICTを活用した効果的な教育を実現し、教育内容を改善するための、組織的な検討を試みる。
				キーワード：ICT・eラーニング・自修支援・学修成果
				実施内容： 7月24日に実施した第1回のFDにおける検討を踏まえ、各教員が後期の授業においてICTをどのように有効活用しているのか、またその工夫が学修状況にどのような変化を及ぼしているのか、ということについて、全教員による実践報告を行う。さらに、質疑応答・意見交換を行い、ICTを活用したさらなる教育内容の改善に向け、より具体的な方策を講じた。
人間文化学部 健康科学科	松本 拓也 谷本 昌太 森脇 弘子	R1. 6. 11 (月) 9 : 00-10 : 30	広島キャンパス 講義室 1331 2455 2317	テーマ：食品衛生監視員養成についての組織的取り組み
		R1. 12. 5 (木) 14 : 40-16 : 10		実施目的：本学科では食品衛生監視員の資格が取得できる。その業務内容や採用試験の実際について、学科教員を対象に勉強会を実施し、求められる知識・技術を知り、それを授業改善に活かすことにより、組織的教育的実現を目指す。
		R2. 1. 20 (月) 16 : 20-17 : 50		キーワード：食品衛生監視員養成、組織的教育、情報共有
		実施内容： 食品衛生監視員を講師として招聘し、業務内容や求められる知識・技術について講演を行っていただき、その後、意見交換会を実施した。また、採用試験の実際について学び、専門教育に反映できるよう検討した。それらより、健康科学科における組織的教育的実現を目指した。		

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
経営情報学部 経営学科	栗島 浩二 平野 実 矢澤 利弘 足立 洋 村上 恵子	R1.9.11（水） 15：50～16：30 R1.10.9（水） 11：40～12：30 R1.11.13（水） 11：40～12：30 R1.12.11（水） 11：40～12：30 R2.1.8（水） 11：40～12：30	広島キャンパス 1212会議室	<p>テーマ： 大学基礎セミナーの教育内容・指導方法の検討</p> <p>実施目的： 全学共通教育科目の初年次導入科目に位置付けられる「大学基礎セミナー」は、その目的を新入生が大学での学びにスムーズに移行できることとしている。そこでの学修は学生のその後の学びと学生生活を充実させる上で重要な役割を果たすと考えられること、また、この科目は再編後に「大学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」に拡充されることから、今年度の学科FD活動では「大学基礎セミナー」の内容や指導方法を検討する。</p> <p>キーワード： 大学基礎セミナー、参加型学修、主体的な学び</p> <p>実施内容： 令和元年9月から令和2年1月まで、毎月1度開催される学科会議に合わせて学科FD活動を行った。具体的には、学科の各教員がローテーションで「大学基礎セミナー」での指導内容（テーマ）や指導方法、使用する教材について、その効果と課題も含め10分程度のプレゼンテーションを行い（9月：村上、10月：和田・小原、11月：栗島・矢澤、12月塚原・平野、1月：足立・朴）、その後、少人数教育の特色を活かした参加型学修のあり方や主体的な学びを促す指導方法・教材、学生とのコミュニケーションの取り方などについて意見交換した。 本学科FD活動を実施したことで、各教員が「大学基礎セミナー」における具体的な指導内容や効果的な指導方法・教材について情報を共有することができ、再編後に「大学基礎セミナー」を担当する際に活用できるノウハウを習得することができた。一方で、指導内容（テーマ）によっては、主体的な学びを促す上で効果的であると考えられるものの、高度な専門知識や能力が必要なため、すべての教員がすぐに導入することが困難なものもあった。これについては、教員が必要な知識や能力を習得する方法を引き続き検討していく必要がある。</p>
経営情報学部 経営情報学科	広谷 大助 佐々木宣介 重丸 伸二 富田 哲治	11月6日（水） 2月13日（木） 2月14日（金）	講義室 会議室等	<p>テーマ： 経営情報学専門演習における中間発表会の導入による評価と検証</p> <p>実施目的： 学科で新たに実施する中間発表会を契機に、振り返りシート及びルーブリックを利用して自身の研究内容について振り返り・自己評価をすることで、研究状況および成果を客観視して把握し経営情報学専門演習の内容の充実及び学生の満足度を高める。</p> <p>キーワード： ルーブリック、振り返りシート、自己評価</p> <p>実施内容： 経営情報学科では卒業論文に相当する経営情報学専門演習において3年次にゼミに配属され、4年次2月に実施される卒業論文発表会に向けて、各研究室で指導が行われている。これまで、各研究室において卒業論文題目を6月に1回提出する事は求めていたが、中間発表等のチェックポイントは独自に設けられていた。実施内容や評価基準の統一のため、今年度は、令和元年度11月16日（水）に学科全体で中間発表会を実施し、卒業論文提出予定者が研究の進捗状況をポスター形式で発表した。セッションは2つに分けて、同じセッションではゼミ毎に島を作り単著の場合は一人で、共著の場合は複数で同時に発表を行った。事前に割当を決めておき、発表を見る際に教員が偏らないようにした。中間発表会後には、これまでの卒業論文の成果、ポスターセッションで質問・指摘を受けた点、他の発表を見ての気づき、卒業</p>

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
経営情報学部 経営情報学科	広谷 大助 佐々木宣介 重丸 伸二 富田 哲治	11月6日(水) 2月13日(木) 2月14日(金)	講義室 会議室等	論文に対する今後の課題と改善点を、振り返りシートにまとめ、今後の研究活動に活用した。また、ルーブリックによる自己評価（6項目）を用いて、中間発表会から2月13日（木）と14日（金）の最終発表会までの自身の成長を数値化した。ルーブリックの結果は集計して可視化することで、学生の成長度合いを定量的に評価した結果、すべての項目で中間発表よりも最終発表が上回った。振り返りシートの記載内容は、テキストマイニングを用いて、学生が感じた課題、他者発表に対する気付きを共起ネットワークで可視化した。これより、学生が自身の発表および他者の発表から学んだことを読み取ることができた。分析結果を学科教員で共有するとともに、来年度の発表会運営に向けた課題の抽出を行った。この取り組みを通じて、各ゼミにおける研究指導の充実へ活かすことにつながると期待できる。
生命環境学部 生命科学科	齋藤 靖和	令和元年 6月～9月、 随時	大講義室 各研究室	<p>テーマ： 大学基礎セミナーの実施方法の改善についての検討</p> <p>実施目的： コース選択及び研究室配属を1年次から意識させ、卒業研究へ向けた行動をスムーズに開始できるようサポートする。</p> <p>キーワード： 研究室訪問、質疑応答、レポート作成</p> <p>実施内容： 学科内の2コース食品資源科学コース、応用生命科学コースの理解を促し、学生-教員間の距離を近づけるため、コース毎に所属教員が分野および研究内容を紹介した後に少人数で各研究室を訪問する形式で実施してきたが、その内容ややり方について昨年度までの学生アンケート結果や教員からの意見を参考にして改善を検討し、ブラッシュアップを図る。 大学基礎セミナーで学んだ、レポートの書き方やノートテイクの手法も活用しながら食品資源科学コースでは、教員の専門分野の説明についてメモを取ると同時に疑問点を調査し研究室訪問を行う方式で、応用生命科学コースでは、教員による課題提示を行い、各研究室を回りながら分野研究をしていく方式で実施した。研究室訪問前後のレポート提出や訪問時の教員との直接対話、質疑応答などを通じて学科内や各コースの違いについて学生の理解や意識を高めることに注力した。学生自身の将来の所属コースや研究室選びにつながることも期待していたところ、学生が研究室を訪問したり、3年からの研究室配属の動機付けになったとの声も聞かれるなど学生にとって良い経験になったのではないかと感じている。また、授業アンケート調査と科目ルーブリックを用いた自己評価なども参考に、再編後の教育にも活用できる手法や内容については継続していきたい。</p>
生命環境学部 環境科学科	大竹 才人	4/17(水) 5/7(火) 5/21(火) 6/25(火) 3/19(木)	1702室 4305室	<p>テーマ： キャリア形成の意識付けを如何に学科のプログラムの中で体系化できるか？</p> <p>実施目的： 多様な出口を持つ環境科学科の学生に対して、就職先を含めたキャリア形成と学科の講義内容との関連性を学生自らに気付かせて学修意欲と授業満足度の向上を図る方策を模索する。</p> <p>キーワード： キャリア形成、学外事業所見学・実習</p>

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生命環境学部 環境科学科	大竹 才人	4/17(水) 5/7(火) 5/21(火) 6/25(火) 3/19(木)	1702 室 4305 室	<p>実施内容： キャリア形成に向けた取り組みとして、環境科学と社会とのつながりの理解を行動型学習によって修得させるカリキュラムを実行させるために、議論を重ねた。 1年生後期 環境科学セミナーⅠでは、新入生に対して外部講師を招聘して、環境に関わる実際の取り組みを紹介して頂くことを検討した。9月30日に、広島県環境県民局より講師をお招きして環境政策等に関わる内容と実際の卒業生の活躍の様子などを講義された。 https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/life/190930.html 2年生前期環境科学セミナーⅡでは、環境意識を高めるための実習を企画した。人力などによる様々な発電方法などを体験させて、環境とエネルギーとの関係を議論させることを計画した。さらには、環境と社会との関係を理解するため、学外事業所見学を検討した。庄原市内の地域に関りの深い現場の視察を候補とした。備北クリーンセンター（焼却施設）、庄原太陽光発電所・山内西地区農業集落排水処理施設の見学を立案して、これらは5月28日に実施された。 https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/life/190528.html これらの活動後、独自の学生アンケートを実施して、学科教員への共有と議論を重ねることで、次年度の新カリキュラムに向けたキャリア教育の構築を議論した。</p>
保健福祉学部 FD委員会	細羽 竜也	令和元年度 3月23日	三原キャンパス内	<p>テーマ：学生のヘルスサポーターマインドの育成における地域貢献事業の効果を省察の観点から検証する</p> <p>実施目的：地域貢献事業について、参加する各学科の学生への事業効果を、特に省察の観点に着目して評価・分析するため</p> <p>キーワード：ヘルスサポーターマインド、地域貢献事業、保健医療福祉</p> <p>実施内容：年間を通じて行われる保健福祉学部各学科の地域貢献事業のうち、学生が参加する事業について、平成19年度現代GPで作成したヘルスサポーターマインド評価表を用い、学生への影響を検討した。なお平成30年度に検討した事業参加の効果の検証に加え、令和元年度は事業参加後の省察（振り返り）が学生の育成に及ぼす効果を検証した。なお成果発表について、各学科において、年間で行った研修内容をポスター形式でまとめ、3月に研修会を実施する予定で進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、研修会は取りやめになった。代替として、各学科で作成した研修用資料をまとめ、「県立広島大学保健福祉学部FD委員会 令和元年度保健福祉学部FD研修会報告集」を3月23日付で作成し、保健福祉学部教員に配布した。</p>
保健福祉学部 看護学科	教育課程検討会 松森 直美	毎月1回（計10 回開催）	2416会議室ほか	<p>テーマ：看護学科教育課程および学修支援アドバイザーの運営、国家試験対策の検討</p> <p>実施目的：看護学科の各領域の代表者が集まることにより学科全体の意見集約と検討結果の反映を行う。</p> <p>キーワード：教育課程、学修支援アドバイザー、国家試験対策</p>

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 看護学科	教育課程検討会 松森 直美	毎月1回（計10 回開催）	2416 会議室ほか	実施内容： 1. 看護学科の教育課程について文部科学省から提示されている看護学教育モデルコアカリキュラムのチェックシートを活用し、現在の教育課程の課題について明らかにし、新カリキュラム作成の基礎資料を作成した。 2. 学習支援アドバイザーの運営ガイドラインの見直しと成果をまとめ検討した。 3. 看護師・保健師国家試験対策の方針の検討および進捗状況、結果の把握と分析を行い、対応を検討した。 4. カリキュラム評価の内容と方法について検討した。
保健福祉学部 看護学科	山中 道代	テーマⅠ 年1回 （平成31年4月 19日（金）） 13:30～16:00 テーマⅡ 月1回（計11回） 90分/回 メール会議1回	テーマⅠ 4601 会議室 テーマⅡ 2416 小会議室 等	テーマⅠ： 教員と実習指導担当者との情報共有と教育方法の改善（看護学科実習指導担当者協議会） テーマⅡ： 臨地実習教育の充実 実施目的： 教員と実習指導担当者間あるいは教員同士で情報交換を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握、共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。 キーワード： 臨地実習、教育方法、情報共有 実施内容： テーマⅠ：教員と実習指導担当者との情報共有と教育方法の改善（看護学科実習指導担当者協議会） [参加者] 大学側：実習担当教員、臨地側：実習施設の看護管理者・実習指導担当者 1. 前年度臨地実習報告 2. 今年度臨地実習の概要説明 3. グループ討議：「地域包括ケアの中で働く看護師の育成に向けて-臨床と教育の立場から-」というテーマでグループ討議を行った。まず、地域包括ケアの中で働く看護師育成に向け、臨地実習で行っていることについて討議した。実習では、担当者会議への参加や連携の場面の見学など体験したことの振り返りにより学生が学ぶ機会を作っていることが挙げられた。その後、今後の臨地実習でできることについては、退院前・退院日・退院後に病棟看護師が行う自宅訪問に同行することや、ケアカンファレンスなど多職種連携の場面へ参加する機会を増やすなどの意見があった。その他、学内演習等でコミュニケーション能力や発信力、マネジメント能力育成が求められることや実習前の学内で継続看護の事例について学ぶことが必要性であるとの意見も挙げられた。 テーマⅡ： 臨地実習教育の充実 実習指導担当者協議会の企画・運営、次年度臨地実習要綱の作成、次年度実習計画の策定・施設への依頼を行った。また、実習における感染症対策の強化、SNSにおける個人情報取り扱いの啓発を実施した。特に、感染症対策については、教員用の対策マニュアルを作成し抗体価検査やワクチン接種の時期などについて明確にした。会議ごとに各臨地実習報告を行い、実習指導上の問題点や指導内容について情報共有及び意見交換を行い、実習指導体制や実習施設の環境の充実を図った。

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 看護学科	看護学科FD担 当 吉田 和美	<p>テーマⅠ 令和元年 5月～ 令和2年 3月 延べ授業参観数 77回</p> <p>テーマⅡ 年4回 90分/回</p>	三原キャンパス	<p>テーマⅠ：授業公開・授業参観を通じた教員相互の授業設計の点検 テーマⅡ：パフォーマンス評価と評価指標（ルーブリック）の作成方法に関する学修</p> <p>実施目的：卒業時の到達目標（DP）の達成に向けて、専門職として必要な知識・技能の積み上げを効果的に行うために専門職育成に関わる教員が協働し、授業設計を再点検する。</p> <p>キーワード： 授業設計, パフォーマンス評価, 組織的教育</p> <p>実施内容： テーマⅠ； 授業公開・授業参観を行うための体系を整備した。参加教員が、「授業設計」「単元ごとの目標達成に向けた教授方法の工夫」に関して授業参観シートに記入し記録媒体を通して情報共有を行う仕組みとした。授業参観の延べ回数は77回であった。年度末に、実施内容に対する評価アンケートを用いて授業設計の点検に関する成果と課題を分析した。アンケートは32名中22名回収した（回収率68.8%）。AP事業と学科独自の授業参観シートがあり、手間がかかる、面倒だという意見があり、引き続き仕組みの改善を行う必要がある。次年度も授業参観したい教員は21名（1名：無回答）であり、ほとんどの教員が継続して授業参観したい意向があった。主な理由は、自分の担当の講義・実習と重なって授業参観できていない科目がある、引き続き自分の授業の参考にしたい等が挙げられた。継続できる仕組みを検討していく。</p> <p>テーマⅡ； 看護教育のためのパフォーマンス評価（著：糸賀暢子／元田貴子／西岡加名恵）の書籍抄読をおこなう学修会を年4回開催した。延べ74名の教員が参加した。実施後の評価アンケートでは、抄読会の内容ごと（①授業設計、②パフォーマンス課題、③ルーブリックの活用と作成）に、ARCSモデルの4要因（注意・関連性・自身・満足感）について回答を得た。すべての項目において肯定的評価を得た。自由記述回答からは、基本的知識を学ぶ以上に、学科教員が同じ課題に取り組むこと、共通認識を持つことの意義が挙げられていた。引き続き、学科教員でテーマを持ち、協働で取り組める課題を設定していく。</p> <p>パフォーマンス評価の進め方（パフォーマンス課題やルーブリックの開発）に関する研究に先駆的に取り組まれている京都大学教育学研究科教育学環専攻教育・人間科学講座教授の西岡加名恵氏を招致して「パフォーマンス評価の考え方・進め方」の教授を受け、教授された内容を自己の授業への取入れを検討するワークショップの開催を3月13日（金）に予定していたが、コロナウイルス感染症の影響により、延期とした。</p>
保健福祉学部 理学療法学科	佐藤 勇太	(前期) 毎週水曜日4限 (後期) 毎週水曜日1限	2416 会議室	<p>テーマ：「学生の動向を把握・共有する」、「講義の形態・方向性を吟味する」 「各教員の研究領域の紹介」</p> <p>実施目的：「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」、「さらなる専門教育の充実を図る」</p> <p>キーワード： 学生生活, 国家試験, 指定規則</p>

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 理学療法学科	佐藤 勇太	(前期) 毎週水曜日 4 限 (後期) 毎週水曜日 1 限	2416 会議室	<p>実施内容：</p> <p>(1)「学生の動向を把握・共有する」について 各学生の情報を共有し、指導・援助の一貫化を図った。各学生の状況は、毎週の学科会議にて各学年担当のチューターから報告・共有し、別途対応が必要な学生に関しては、協議を実施した。臨床実習の時期には、実習地訪問の結果なども共有することで必要に応じた迅速な対応に努めた。</p> <p>(2)「講義の形態・方向性を吟味する」について 専門教育のさらなる充実を図るために、講義内容、学生指導のあり方について検討した。学科会議において、国家試験模試の結果を共有し、国家試験に向けた講義等に活用した。学科会議に合わせて月1回程、教育に関する各種教授法の紹介や実践例などを提示し、情報共有することで今後の講義を吟味した。また、指定規則改定に向けた実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品も購入するなど準備を進めた。</p> <p>(3)「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することで研究・教育能力の向上に努めた。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含む学科特有の内容についての議論が必要である場合もあった。このため、公開は取り扱う内容によって判断し、公開可能であれば事前に学内に周知した。</p>
保健福祉学部 作業療法学科	吉岡 和哉	年 20 回 毎月第 1・3 水曜 12:30～13:00	三原キャンパス 2416 会議室	<p>テーマ： 作業療法士養成教育内容および臨床実習教育の充実</p> <p>実施目的： 教育内容の振り返りを行い学内教育の向上を行う。また、臨床教育を行う病院や施設と連携し養成教育の充実を図る。</p> <p>キーワード： 授業内容の振り返り、臨床実習教育、国家試験対策</p> <p>実施内容：</p> <p>①授業内容の振り返りの実施 実習修了後の学生から学内教育に関する内容について実施状況を把握し今後の課題について検討を行った。</p> <p>②臨床実習教育 指定規則の変更に対応できる実習形態の変更とともに実習先の病院や施設と連携を図りながら、よりよい臨床実習教育の充実について検討を行った。</p> <p>③国家試験対策 国家試験全員合格に向けて学科教員がそれぞれの役割を担い、学修をサポートできる体制を構築する。学生の学修状況を共有しながら、取り組みの効果を検証した。</p> <p>④最新の研究エビデンスの共有 作業療法関連領域における最新の研究成果を共有し、教育内容に取り入れていくと共に、各教員の研究・教育能力の向上を図った。</p>

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 コミュニケーション 障害学科	渡辺 眞澄	令和元年度授業 期間中	三原キャンパス 1309/1310 演習室	<p>テーマ： 年間を通じた学科での教育改善活動</p> <p>実施目的： 教育の質の向上を目的として、各教員が行っている研究・教育活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。さらに、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。</p> <p>キーワード： 教育の改善、研究活動情報共有、伝達講習</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学外実習施設の言語聴覚士との意見交換会(1)：5月13日 2. 学外実習施設の言語聴覚士との意見交換会(2)：7月8日 3. コンピテンシー自己チェックリストの活用による授業理解向上効果の検討：7月17日（細川淳嗣） 4. 臨床実習をめぐる最近の動向：9月9日（矢守麻奈、坊岡峰子） 5. STの音声酷使について—愛媛県のSTにおける音声の自覚的評価の検討を通じて— 11月11日（田口亜紀） 6. 音声資料の録音手順と使用機器、環境設定： 12月11日（榎原健一先生（北海道医療大学）、河原英紀先生（和歌山大学 名誉教授））
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	令和元年度 全期間	三原キャンパス内	<p>テーマ： 社会福祉士・精神保健福祉士養成教育の内容の充実を図る</p> <p>実施目的： ソーシャルワーク教育における講義・演習・実習科目の質の向上を図る</p> <p>キーワード： ピアレビュー、アクティブラーニング、ソーシャルワーク教育</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業公開（ピアレビュー事業） 6月～11月まで計8回（6/12（1）、7/8（1）、7/9（2）、7/10（1）、7/12（1）、11/13（1）、11/29（1）） 計8名の教員が授業を公開した。公開教員数は昨年度より減少したが、AP事業での取り組みも承認することにより、学科内外で計26名の参観者があった。公開授業に伴い、授業の研鑽に努めた。 (2) AP事業関連の活動支援（人間福祉学科内） 令和元年度中のAP事業に係る事業について、FDer教員はむろん、学科教員もピアレビュー授業やポートフォリオによる授業運営に取り組み、キャンパス目標の達成に貢献した。また学修支援アドバイザー（SA）の活用にも取り組んだ。 (3) 社会福祉教育に係る研修への教員派遣と伝達研修の実施 ソーシャルワーク教育学校連盟の教育研修等に教員を派遣したが、十分な情報が得られず、中止となった。 (4) 社会福祉教育に資する企画研修の実施 ①1月28日（火）2限目に、外部講師に依頼して「省庁風ポンチ絵講座」の研修会を行った。

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等																												
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	令和元年度 全期間	三原キャンパス内	②外部講師に依頼して、3月にFD活動促進事業に申請していた研修会を行う予定であったが、コロナ禍のため、中止となった。																												
全学共通 教育部門	岡田 高嘉	令和元年度 授業期間中	全学	テーマ：初年次導入「大学基礎セミナー」について																												
				実施目的：新しい「大学基礎セミナー」の開始に向けて、授業内容や実施体制について検討を行う。																												
				キーワード：アカデミック・スキルズ																												
				<p>実施内容： 初年次必修科目「大学基礎セミナー」において、4月の授業開始時と7月の授業終了時の2回にわたり、「科目ルーブリック」を活用して、1年次学生全員の自己評価を調査し、同科目受講による学生の成長（伸び）を探った。授業終了時の自己評価は、全体的に目標達成を示す「2」以上と回答した学生が多く、この授業を通して、学生は基本的なスキルを修得し、着実に成長していることが判明した。 一方、「プレゼンテーション能力」や「討議力」の項目については、目標達成を示す「2」にわずかに達しておらず、また「文章構成力」も「2.00」となっており、かろうじて目標を達成したという状況であった。</p> <p>【調査結果】</p> <table border="1" data-bbox="1032 850 2033 1155"> <thead> <tr> <th></th> <th>授業開始時(4月)</th> <th>授業終了時(7月)</th> <th>伸び</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主體的学修態度</td> <td>1.64</td> <td>2.24</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>課題解決能力</td> <td>1.49</td> <td>2.11</td> <td>0.62</td> </tr> <tr> <td>情報検索能力</td> <td>1.58</td> <td>2.32</td> <td>0.74</td> </tr> <tr> <td>文章構成力</td> <td>1.27</td> <td>2.00</td> <td>0.73</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション能力</td> <td>1.16</td> <td>1.91</td> <td>0.75</td> </tr> <tr> <td>討議力</td> <td>1.43</td> <td>1.99</td> <td>0.56</td> </tr> </tbody> </table> <p>以上の調査結果は、第3回全学FD研修会（令和2年2月12日開催）にて全学に向け公表し、周知した。この調査で、「プレゼンテーション能力」、「討議力」、「文章構成力」については、まだ目標達成に至っていない、又はまだまだ成長の余地があることが判明した。この本学の学生の課題に対しては、令和2年度、新課程における大学基礎セミナーⅠ・Ⅱやアカデミック・ライティング、クリティカル・シンキングといった新規科目を、全学的に着実に実施していくことで対応していく必要がある。</p>		授業開始時(4月)	授業終了時(7月)	伸び	主體的学修態度	1.64	2.24	0.6	課題解決能力	1.49	2.11	0.62	情報検索能力	1.58	2.32	0.74	文章構成力	1.27	2.00	0.73	プレゼンテーション能力	1.16	1.91	0.75	討議力	1.43	1.99	0.56
	授業開始時(4月)	授業終了時(7月)	伸び																													
主體的学修態度	1.64	2.24	0.6																													
課題解決能力	1.49	2.11	0.62																													
情報検索能力	1.58	2.32	0.74																													
文章構成力	1.27	2.00	0.73																													
プレゼンテーション能力	1.16	1.91	0.75																													
討議力	1.43	1.99	0.56																													